

2-3. 「生産性の向上」の効果検証



活性化プラン2024



「生産性の向上」の効果検証

生産性の向上

取組施策	取組項目	取組目標	R6計画		R6取組に関する検証	アンケート調査による検証	参考1 ページ番号	アンケート ページ番号
			R6実績(2月時点)					
建設DXの導入	・ 建設企業等のDX導入の支援	・ 建設DX促進説明会の参加社数(累計)	(計画)	650名(累計)	・ ASPの活用率は79%、ICT活用工事の実施率は72%であるのに対し、 遠隔臨場は13% にとどまっている。 ① ASPは受注者が効果を実感しており、ICTは工事成績点で加点している。遠隔臨場は活用の効果などの理解が不足しているため、 活用率が低迷 していると考える。 ・ 今後も受注者向けの 説明会を継続して開催し 、未受講者に 建設DX導入に向けた意識を高めてもらう必要がある 。	・ 遠隔臨場を活用しない理由 「理解不足」28% 「機器の操作ができる人材の確保が困難」21% ・ ASPを活用しない理由 「理解不足」28% 「機器の操作ができる人材の確保が困難」23% ① 建設DX促進説明会を継続して開催し 、受注者に DXを活用するメリットを説明する必要がある 。	【労】P11 【生】P3、4、5	【参考2】P24、26
			(実績)	656名(累計)				
建設DXの活用	・ 建設DX研修による人材育成	・ 講習会の開催回数	(計画)	5回/年	・ R6年度の講習会はICT活用工事の初級編を開催するが、 R7年度は3次元設計データの作成方法等 を盛り込み、講習会の内容を ステップアップ させていく必要がある。 ・ アンケートを実施し、 企業が必要としている支援が何であるかを分析し 、 R7年度以降の施策に反映させていく必要がある 。	② 建設DX講習会を継続して開催し、受注者の 人材育成を支援していく必要がある 。	【生】P6	—
			(実績)	3回/年				
	・ ICT活用工事の推進	・ 3次元測量データの提供件数	(計画)	10件/年	・ ICT活用工事 未経験企業に、ICTを経験する機会 を与えることで、 メリットを実感 してもらうことができた。 ・ ICT活用工事未経験企業にプロセス①の3次元データを提供することで、 プロセス②以降の実施を促す ことができた。 ・ 試行工事を増やし、 未経験企業の導入を後押し することで、ICT活用工事 実施率向上に繋げていく必要がある 。	③ ICT活用工事は 3次元データを県から提供 してもらえれば、もっと 取組が進む 。	【生】P7	—
			(実績)	13件/年				
	・ BIM/CIMの活用、支援	・ BIM/CIM成果の活用工事件数(累計)	(計画)	5件(累計)	・ アンケート結果を分析し 、多くの工事に 活用例を展開していく必要がある 。 ・ 今後も継続して取り組み、 BIM/CIM活用により施工の効率化に繋げていく必要がある 。	・ 施工手順を可視化 することができ、打合せにおいて、元請け、下請けともに 完成イメージを共有 することができた。 ・ 新規入場する作業員に対し、出来上がり を3次元で示すことにより、 分かりやすく説明 することができた。	【生】P8	—
			(実績)	6件(累計)				
建設DXの持続的な推進	・ 新技術の活用	・ 活用事例の紹介件数	(計画)	5件(累計)	・ 省人化・省力化に効果が確認できる新技術 について、多くの企業に取り組んでもらえるよう、 ガイドブックに掲載し、広く周知 していく必要がある。	・ 情報通信技術の情報(理解) が不足している。 ④ 新技術・新工法の情報を共有 することで、 生産性向上を図る必要がある 。	【生】P9	【参考2】P39
			(実績)	5件(累計)				

※番号：R 7 取組方針（案）の番号の関連

※【労】→参考1【労働環境の改善】

※【生】→参考1【生産性の向上】

取組方針3 生産性の向

担い手確保・生産性向上小委員会 ・ 建設業団体の主な意見

担い手確保小委員会:担い手
生産性向上小委員会:生産性
建設業団体:業団体

- ICTを活用すると生産性が向上し、人も減り安全性も高まるため、**多くの人に知ってもらいたい。**
(生産性)【取組方針①②】
- 3次元測量を多くの企業に経験させるためには、**発注者指定で工事を発注することや、対象工種を拡大していくと良い。**(生産性)【取組方針③】
- 発注者が3次元測量データを提供する取り組みでは、現場によって河川の水際位置など、提供されたデータに**附加している情報がある**ので、**これらも提供していただく**ようにして欲しい。(生産性)【取組方針③】

令和7年度 取組方針(案)

(★) 小委員会・建設業団体の意見を反映

- ① 建設DX導入に向けた**建設DX促進説明会**を**継続**して**開催**し、**遠隔臨場の必要性やメリット**を**周知**していく。(★)
- ② **建設DX講習会**で実践的内容を盛り込むなど、内容の**ステップアップ**を図る。(★)
- ③ ICT活用工事促進のために、発注者が受注者に**3次元測量データを提供する工種の拡大と工事件数を増大**する。(★)
- ④ **新技術**による**省人化・省力化事例**を収集し、ガイドブックに掲載して**広く周知**する。



取組方針 3 生産性の向上

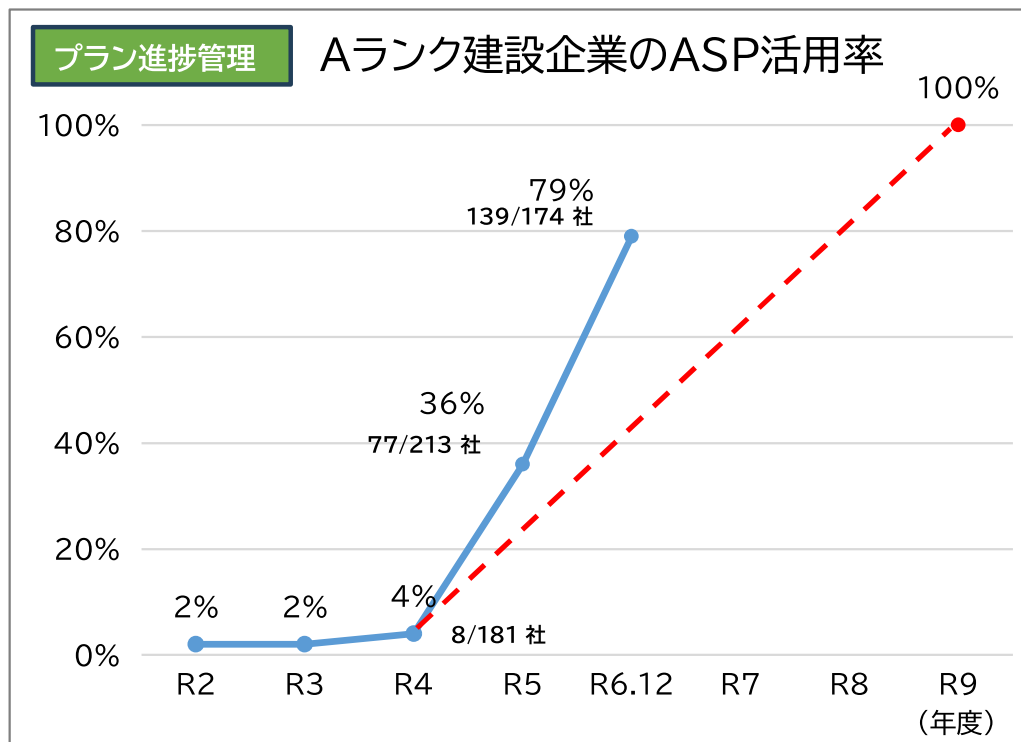
各取組項目における令和7年度の取組方針(案)

取組施策	取組項目	取組目標	R7計画	R7方針(案)
建設DXの導入	建設企業等のDX導入の支援	建設DX促進説明会の参加社数(累計)	800名(累計)	- 令和6年度の取組を継続 ① 遠隔臨場の実施方法やメリットを促進説明会で周知していく。
建設DXの活用	建設DX研修による人材育成	講習会の開催回数	5回/年	- 令和6年度の取組を継続 ② 実務で活用できる実践的内容の建設DX講習会(上級編)を開催する。
	ICT活用工事の推進	3次元測量データの提供件数	20件/年	- 令和6年度の取組を継続 ③ 3次元測量データの提供の工種拡大と工事件数を増やしていく。 - 各現場で必要となる情報を整理し、提供データに附加していく。
	BIM/CIMの活用、支援	BIM/CIM成果の活用工事件数(累計)	10件(累計)	- 令和6年度の取組を継続 - BIM/CIM成果の活用工事件数を増やしていく。
建設DXの持続的な推進	新技術の活用	活用事例の紹介件数	10件(累計)	- 令和6年度の取組を継続 ④ 新技術による省人化・省力化事例を収集し、ガイドブックに掲載して広く周知する。



取組方針 3 生産性の向上

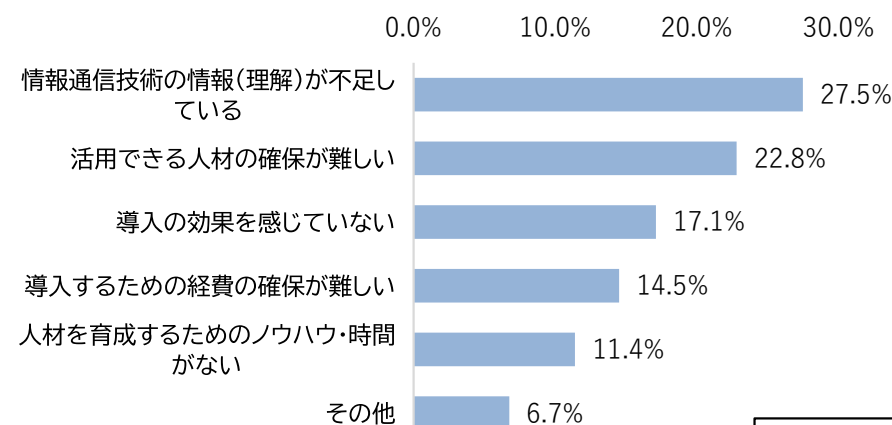
取組指標	現状値 (令和4年度)	目標値 令和6年度	目標値 令和7年度	目標値 令和8年度	目標値 令和9年度
Aランク建設企業のASP活用率 (ASPを活用(土木一式Aランク) / 三重県発注工事受注企業(土木一式Aランク))	4% (8社/181社)	30%	50%	80%	100%
	(令和5年度)	実績(R6年12月時点)			
	36% (77社/213社)	79% (139社/174社)			



取組指標:「県土整備部調べ」

企業アンケート②(建設企業の現状に関するアンケート)

ASPを活用しない理由(企業全体)



(n=193)

動向・傾向

- ASPの活用率について、令和4年度までは低い水準であったが、令和5年度から大幅に増加している。
- ASPを活用しない理由としては、「制度の理解不足」「人材の確保」が多い。